
ひぐらしのなく頃に～心迷い編～

夜空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひぐらしのなく頃に〜心迷い編〜

【Nコード】

N4667BA

【作者名】

夜空

【あらすじ】

昭和58年6月の惨劇を回避する事の出来なかった梨花達は時間をループさせ新しい難見沢へとやってきた。

この世界では惨劇が起きることなく綿流しのお祭りを過ごすことが出来た。

そして惨劇を回避出来たと安心する梨花に今までとは違う新たな惨劇が…

（注意）この物語の中の鷹野三四は悪人ではありません。そして古手梨花は原作より若干能天気です。

初めて小説を書くので上手く書けるか不安もありますが頑張るので宜しくお願いします。

感想などあったら是非是非お願いします！

新しい世界

昭和58年6月：

「この100年の間一度も回避出来なかった富竹と鷹野の死：　そして古手梨花の死：　そのどちらも起きず、仲間の誰もが「疑心暗鬼」に囚われる事なく綿流しが終わったなんて：　フツ　こんな世界が在るなんてね。このままいけば昭和56年6月の壁を越えられるかもしれないわよ羽入！」
そう言いながら沙都子の布団を直す梨花の顔はとても嬉しそうだった。

「あああう　でも梨花：　こんなに平和な世界、なにか違和感を感じませんか？」

「フツ相変わらず心配性ね羽入。もう綿流しが終わって3日も経っているのよ、私が見る限りこの世界には仲間たちが「疑心暗鬼」に囚われる要素は見当たらないし、何故だか解らないけれど今までの世界で感じていた死が迫る恐怖を感じないのよね。」

「でもでも梨花！今までの世界では必ず梨花のことを殺す人が居ましたのです：　そんなに簡単に安心しては危険なのですよ！あああう」

「バカね羽入。今までの世界で私を殺してきた犯人は必ずオヤシロ様の崇りに関連付けて私を殺していたはず。だからこの世界で私を殺そうとしている人物が居たとしても来年の綿流しまでは私に手を

出さないはずよ。」

「でもでも梨花ッ!」

「ううゝん…梨花あこんな夜中にどうかしましたのー?」

「何でもないのですよ。にぱー」

「沙都子起きてしまっからこの話はもうおしまいよ。」

そう言って話を切り上げた梨花は布団に入り眠りに就いた。

計画

昭和58年6月某日曜日…

「こんにちはー！園崎です。婆っちゃんのお使いできました。」

「はい」

その返事の後に顔を出したのは公由家の親戚筋に当たる夏美だった。

「あれー夏美ちゃん！いつこっちに來たのー？」

「昨日の夕方からこっちに來たんだあ」

「そうなんだー！都会暮らしはどうよ？楽しいーい？」

「うん！友達も沢山出來たし結構楽しくやってるよ。この前もその友達に連れて行ってもらったホビーショップがあつて…あつ！そういえば魅音ちゃんゲームとか好きだったよね？そのお店珍しいゲームとか色々有ったから魅音ちゃんきつと氣に入ると思っよ！」

「珍しいゲームかあ…良いねえ！おじさんとしては是非ともお目にかけたいねえ…！！」

そう言つと魅音はニヤリと笑つた。

「良かったら今度案内するよ。いつがいいかなあ？」

「うーんそうだねえ…あれ？夏美ちゃんはいつまでこっちに居るの

「？」

「明日のお昼頃には向こうに帰る予定だよ。」

「そっか！じゃあ明日おじさんも一緒に行こうかなー！」

「えっ！？魅音ちゃん学校は？」

「くつくつく、それは大丈夫だよー！！！」

翌日

「　　と言つ事で明日の授業は午前中までです。間違えてお弁当は持って来ないで下さいね。あつてもカレーならいくらでもOKですよ。」

「「はいー！！」」

「では皆さん、さようなら。気を付けて帰って下さいねー」

「よーし！部活だぁー！！！」

「今日の部活は一体なにをするんですの？」

「ボクはなんでも頑張るのです。にぱー」

「そうだねー今日の部活は…」

「ねえー魅いちちゃん、今日の罰ゲームはちょっと趣向を変えてやるっていうのはどうかな？かな？」

「ん？趣向を変えるってどんな感じに？」

「えっとね、例えばビリになった人が部活メンバーの誰かに告白したりデートするの！」

「うーん…なるほど！それは面白そうだね！！」

「ち、ちよつと待てよ！それじゃ男の俺は勝っても負けても罰ゲームみたいになっちゃうじゃねーか！」

「それは違うのです、圭一。レナは魅いに告白するかもしれないし、ボクは沙都子にするかもなのです。女の子同士でニヤーニヤーなのですよ。」

「なるほど…それはそれでおいしいのか、いやでも…うーん」

「圭ちゃんのことはほつといて…うん、いいねー！その提案…！じやあ今日の罰ゲームは明日の午後ビリが部活メンバーの誰かとデートするってことで決まりだね！」

1時間後

「ぐはっ！…！」

「あらあら、今日の罰ゲームも圭一さんで決まりですね。おーほほほー!」

「圭一は良く頑張ったですよ。でも今日の魅いはいつもより気合の入りがたが違ったのです。かわいそかわいそなのです。」

「確かに今日の魅いちゃんはスゴかったかな!かな!」

「くつくつく…これくらいでスゴいなんて言葉は聴きたくないなあー!」

「さて圭ちゃん…そろそろ罰ゲームの相手を決めてもらおうか!」

「うう…じ、じゃあレナで…」

(あっちゃー!これじゃおねえの乙女心が…まあ私としてはこれはこれでおもしろいですけど…)

「はう!けけ、圭一くんはレレ、レナでいいのかな?かな?」

「ああ。レナでいいんだよ!」

その日の夜

「おーい礼奈、前原君から電話だぞー」

「はい」

「あつ、圭一君？うん！上手くいったね！後は梨花ちゃんと沙都子ちゃんに例の計画を話して協力してもらっただけだね！だね！

うん、うん、そうだね。わかったよ！じゃあ今から梨花ちゃん達に連絡しておくね！うん。じゃあまた明日ね。」

「もしもし、梨花ちゃん？あのね実は」

作戦会議

翌朝

（うーん…昨日は結局帰りが遅くなって詩音と連絡取れなかったけど大丈夫かな…？とりあえず今日は上手く話を合わせておいて詩音には帰ってから聞くな？）

「おはよう！魅いちゃん。」

「あつおはよー！レナ！実にいい朝だねー！」

「なんだよ魅音。そんな近所のおばさんみたいな朝の挨拶は！？」

「あつれー圭ちゃん居たの？ごめんごめんおじさん気付かなかったよ。」

「嘘つけ！お前気付いてただろ！」

「んー？何の事を言われてるのか解らないなー」

「あははー二人共本当に仲良しさんだね！だね！レナはちよっぴり嫉妬しちゃうよ。」

「ちちち、ちよっと！レナアアア！！！」

「まったくレナは一体なにを聴いていたんだ？」

「あはは！魅いちゃん照れてるのかな？照れてるのかな！」

「こらああー！待てレナア！」

「たくっ！おーいお前らそろそろ行かないと遅刻するぞー」

そして朝の挨拶を済ますと圭一達は走り学校へと向かった。

「おはよー！」

「皆さま方。お待ちしてましてよ！」

「…おはようございますなのです。」

「おはよう。梨花ちゃん、沙都子ちゃん。」

「おーおはよう！沙都子、梨花ちゃん！今日も早いな！」

「そんな事より圭一さん！今日のデートの予定は決めて来ましたの？」

「ああ…それは」

「えええええ！でで、でえとおお！？！？？」

「どういたしましたの？魅音さん…？昨日の部活の罰ゲームは少し趣向を変えてビリの方が部活メンバーのどなたかとデートをするという事でしたわよね…？」

「ああうん！そう、そうだよ！いやーおじさんまだちょっと寝ぼけてたよー！あつはははは！」

（もうつ！詩音のヤツー！なに考えてんのよおー！…圭ちゃん誰とデートするのかな？）

「たくつ。大丈夫かぁー魅音？」

「大丈夫に決まってるじゃん！そんな事よりデートどこ行くのさ！？」

「ああ、昨日の夜考えてたんだが、やっぱり雛見沢だとやることも限られちまうから興宮まで出ようと思ってる。」

「へー！わかってるじゃん、圭ちゃん！やっぱり雛見沢は暮らすには最高だけど、デートするには自然じゃないからねー。」

「まあそんなところだ！」

「はい皆さん！席に着いて下さい！授業を始めますよー」

「はい」

「では昨日連絡をしたように今日の授業はここまでです。皆さん気を付けて帰って下さいね。」

「えええええ！」

「どうかしましたか、委員長さん？まさかお弁当を持って来てしまったのですか？」

「うう…」

「それは困りましたね。カレーだったら私が是非とも頂くんですが…仕方がないのでおうちに帰ってから食べて下さい。」

「はい…」

「では皆さん、さようなら。」

「「さようならー」「」

「魅いちちゃん今日はどうしちゃったのかな？かな？」

「今日の魅いはまるでいつもの圭一のようなのですよ。かわいそかわいそなのです」

「ううゝおじさんとしたことがぁ……」

「なんだ魅音！？今日は1日寝ぼけてたんじゃねーか？」

「魅音さんでもこんな初歩的なミスなさるのですわね！おーほっほ！」

「今日は部活もないんだし大人しく家に帰ってゆっくり休むんだな！罰ゲームの報告は明日じっくり聴かせてやるからよ！」

「そうだね！おじさん今日はゆっくり休ませてもらうよ。」

（早く帰って詩音に昨日の事を聴きたいし丁度良かったー！）

「では皆さま方わたくしたちは失礼させていただきますね。」

「また明日なのです。にぱー」

「おうっ二人共また明日な！」

「梨花ちゃん、沙都子ちゃんバイバイ！また明日ね！」

「それじゃ俺達も帰るとするか！」

「そうだね。圭ちゃんも色々忙しいだろうしねー」

「じゃあ魅いちゃん、また明日ね！しっかり休まなきゃだめなんだよー！」

「そうだぞ、魅音。間違えても遊び歩いたりはするなよな！」

「はいはい！じゃあまた明日ねー」

「おうじゃあな！」

「バイバイ！」

「ふう…これで魅音にはバレル事なく話し合いが出来そうだな！」

「そうだね。梨花ちゃん達との待ち合わせ場所は興宮の図書館だよ。」

「じゃあ俺達も着替えてすぐに向かうか！」

「じゃあ着替えたら圭くんのおうちに迎えに行くね！」

「おう！じゃあ後でな！」

（はあー今日はバイトも休みだし暇ですね。ふらふらしているのも
疲れるだけだし隠れ家の食料品を買い出しにでも行きますか……あ
れ？あそこに居るのは圭ちゃんとレナさん……あー、なるほど！昨日
の罰ゲームの。面白そうだしちょっとからかいに行きますか！）

「ハロローン。圭ちゃん、レナさん」

「っ！？し、しお、詩音？」

「あつ詩いちゃん！こんにちは！」

「お二人だけで何をしてたんですー？まさかでえとですか？」

「いや！部活の罰ゲームなんだよ！！詩音こそこんな所でどうした

んだよ？」

（くそっ忘れてたぜ！興宮にはこいつが居たんだっ…マズイぞ、このままだと付いて来かねない…なんとかしなくては！落ち着け！クールになれ！クールになるんだ前原圭一！！）

「へーそうなんですかー！なんだか楽しそうですね。私はバイト休みなので暇してたんですよ。よろしければ是非私も一緒にしたいです！」

「すまんが詩音。今日は罰ゲームの内容がデートという事だから二人で色々、本当に色々としなくてはならないんだ。」

「うんそうなんだあ、ごめんね詩いちゃん。レナ達も罰ゲームじゃなかったら良かったんだけど……」

「あちゃーそうですか…それは残念です。でもそう言う事なら仕方がないですね。お二人の邪魔をするのも悪いので今回は諦めます！」

「本当にごめんね、詩いちゃん…また次の機会にでも皆で遊ぼうね！」

「じゃあ俺達ちよつと先を急ぐから…またな！」

「はい。お二人も存分に楽しんでってくださいねーってもうあんな遠くに行っちゃってます。」

「け、圭一くん…もう大丈夫なんじゃないかな？かな？」

「はあはあ……あ、ああ。それにしても危なかったぜ。もう少しで計画が失敗するところだった。詩音が興宮に住んでる事をすっかり忘れちゃってたぜ」

「そうだね。でも詩いちゃんも上手く誤魔化せたり待ち合わせ場所まで急がなきゃだね！」

「おう！じゃあ急ぐか！」

「うん！」

「お二人共！……お待ちしてましてよ！……！」

「……こんにちはーなのです。」

「おーう！待たせたな二人共！」

「遅くなったかな？梨花ちゃんたちは今来たの？」

「着替えてすぐに来たので、だいぶ待つてましたですよ。」

「それは悪い事をしちゃったね。来る途中で色々とあつて。」

「圭一では仕方ありませんですよ。」

「ちよい待て。……俺が悪役になりや丸く収まるのかよ！？」

「もちろん！圭一さんでなくては務まらない大役でしょ？おーっほっほ！」

「実に嫌な大役だな。こんなので丸く収まると思ったら大間違いだぞ！」

そう言うと圭一は沙都子の頭をポカポカと叩き始めた。ポカポカポカポカ……！！

「わああああああんツ！圭一さんがいじめたあああ……！」

「圭一にいじめられてかわいそかわいそですよ。」

「さ、沙都子ちゃんが泣いてる……！はう……お持ち帰り……！！悪人はレナがやつつけてあげるからね……！！！」

スパパパパー……ンツ……！！！！

レナは沙都子の泣き顔に狂喜して頬擦りし、梨花ちゃんは倒れている圭一の顔をなでなでしている……。

そして、戯れている四人の事を見つめるひとつの陰がそこにあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4667ba/>

ひぐらしのなく頃に～心迷い編～

2012年1月14日22時53分発行